

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|----------|---|--|
| 1 | B型肝炎 | ProMED-mail 20150508.3349677 | ベトナムにおけるB型肝炎の報告。2015年5月6日、ベトナムのHealth ministryはベトナムがB型肝炎の深刻な脅威に直面していると述べ、感染率がベトナムの総人口の10~20%であることが明らかとなった。 |
| 2 | B型肝炎 | ProMED-mail 20150613.3428825 | 米国におけるB型肝炎の報告。ノースカロライナ州のMoore County Health Departmentは、若年成人における急性B型肝炎の症例数が著しく増加していることを通知している。2014年の確定症例は年間2例であったが、2015年は初めての5ヶ月間で5例の確定例が発生し、そのうち2例はC型肝炎との重感染であった。 |
| 3 | D型肝炎 | Hepatology.61(2015)1870-1879 | 台湾におけるHDVの報告。HBs抗原陽性例2,562例を対象に前向き多施設コホート研究を行った結果、注射薬物使用、HCV感染、HIV感染、250IU/mL以上の血清HBs抗原値、薬物使用期間および加齢がHDV感染に関連する重要因子であった。 |
| 4 | E型肝炎 | EMA Reflection paper on viral safety of plasma-derived medicinal products with respect to hepatitis E virus Draft | 血漿由来医薬品のE型肝炎ウイルス(HEV)安全性について。製造工程中のHEV不活化/除去工程に関する研究が望まれるとの内容。 |
| 5 | E型肝炎 | Emerg Infect Dis. 21(2015)1679-1681 | E型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。B型肝炎による肝不全のため肝移植を実施した後、16年間抗ウイルス剤と免疫抑制剤を投与されていた米国在住の患者が、2013年4月に香港訪問中に軽度の黄疸を発現し、3週間後HEV-RNA陽性を認め8ヶ月には顕著な肝不全のため肝移植が行われたが術中に死亡した。香港訪問期間とHEVの潜伏期間が重なることから香港においてHEV Genotype4に感染した可能性が高いと考えられた。 |
| 6 | E型肝炎 | IDWR感染症週報2015年第24週(第24号) | 2012~2014年の国内の感染症発生動向調査において、E型肝炎感染症例の感染源のうち、単独の食材が推定されたものとしてブタが最も多かった。厚生労働省は平成27年6月12日からブタの生肉レバー等の内臓を生食用として販売・提供することを禁止した。 |
| 7 | HIV感染 | MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 64(2015)443-444 | 米国における注射器の回し打ちによるHIV感染の報告。インディアナ州保健当局は2015年1月23日~4月21日の間に、4,200名のコミュニティで135名と診断した。 |
| 8 | インフルエンザ | CDC FLUVIEW 2014-2015 Influenza Season Week 28 ending July 18, 2015 | 米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。ミネソタ州において、H3N2vのヒト感染症例2例が報告された。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。 |
| 9 | インフルエンザ | ProMED-mail 20150804.3116121 | 米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。ミネソタ州において、H3N2vのヒト感染症例1例が報告された。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。 |
| 10 | インフルエンザ | IDWR感染症週報2015年第26週(第26号) | 米国におけるインフルエンザウイルスA(H1N1)変異型(H1N1v)の報告。2015年初めての米国でのH1N1vヒト感染例がWHOに報告された。患者は2015年4月に合併症のため死亡した。患者は家畜場で働いていたが、発症の前週のブタとの直接接触は報告されていない。 |
| 11 | インフルエンザ | ProMED-mail 20150830.3612253 | 米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)の報告。アイオワ州において、H1N1vのヒト感染症例1例が報告された。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。 |
| 12 | インフルエンザ | MMWR. 64(2015)1011-1016 | 米国におけるインフルエンザAの報告。2015年5月24日~9月5日に、インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)感染症例が7月にミネソタ州で、8月にミシガン州でそれぞれ1例報告され、インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)感染症例が8月にアイオワ州において1例報告された。 |
| 13 | インフルエンザ | Emerg Infect Dis. 21(2015)1189-1191 | イタリアにおけるインフルエンザA型(H3N2)の報告。2014年1月、イタリアで多発性骨髄腫のために化学療法を受けていた67歳の男性がH3N2に感染した。感染前にブタと接触があったことが確認されている。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|---------------|--|--|
| 14 | インフルエンザ | Emerg Infect Dis. 21(2015)1267-1269 | 2009～2011年の間に、中国本土の22省の家禽市場の労働者、小規模養鶏農家、大規模養鶏農家、家禽屠殺場労働者、野鳥生息地の労働者から15,689の血清サンプルを収集し、鳥インフルエンザH6ウイルス(H6)について評価した。H6陽性血清は家禽市場の労働者で最も多く(0.66%)、無条件ロジスティック回帰モデルによる分析により、家禽市場への曝露はH6のヒト感染のリスク因子であることが示された。 |
| 15 | 鳥インフルエンザ | ProMED-mail 20150506.3345785 | 中国におけるインフルエンザA(H7N9)の報告。2015年5月6日中国AnhuiにおけるH7N9症例が報告された。患者は3歳の男児で発症前に家禽に曝露していた。 |
| 16 | インフルエンザ | ProMED-mail 20150304.3205901 | インドにおけるブタインフルエンザの報告。2015年2月28日までにインドにおけるヒトのブタインフルエンザ感染例は190,000例を超え、2ヶ月間で1,041例に達した。 |
| 17 | 鳥インフルエンザ | Virol J. 12(2015)34 | 中国におけるインフルエンザ(H9N2)の報告。中国山東省において養豚場のブタおよび労働者について、赤血球凝集阻止測定およびマイクロ中和試験を実施した結果、ブタおよび労働者はH9N2に陽性であることが明らかになった。 |
| 18 | インフルエンザ | WHO Weekly epidemiological record. 90(2015)349-364 | 2014年1月から2015年4月までに報告されたインフルエンザについて。カンボジア、中国、エジプト、インドネシア、ベトナムにおいて、インフルエンザA型(H5N6)が報告された。その他、インフルエンザA型の報告として、H7N9、H9N2、H1N1変異型、H3N2変異型などの感染例について報告された。 |
| 19 | ウエストナイルウイルス感染 | Transbound Emerg Dis. doi:10.1111/tbed. 12334 | ブラジルにおけるウエストナイルウイルス(WNV)感染の報告。ブラジリアイ州の地方自治体であるAroeira do Itaimにおいて、ウマ1例のWNV陽性が認められた。これはブラジルにおける初の症例である。また、当該地域では、2014年6月に牧場労働者1例が神経学的症状を呈しており、2014年12月にこの症例のWNV感染が確定している。 |
| 20 | ウエストナイルウイルス感染 | Transfus Med Rev. 29(2015)153-161 | 2003～2012年に米国赤十字社が実施したウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムの結果では、2,700万以上の供血の検査が行われ、1,576件がWNV RNA陽性であった。 |
| 21 | ウエストナイルウイルス感染 | Outbreak News Today 2015年8月15日 | EUにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の報告。2015年8月13日時点でEU加盟国で報告されたWNVは以下のとおり。イタリア4例、ブルガリア1例、ルーマニア1例、オーストリア1例。オーストリアにおける感染は無症候の献血者から検出されたもので同国初の感染であった。 |
| 22 | 口内炎 | ProMED-mail20150503.3339014 | 米国における水疱性口内炎の報告。ニューメキシコ州において水疱性口内炎を発症したウマが確認され、同じ場所で飼育されていたウマとウシが隔離された。 |
| 23 | 口内炎 | ProMED-mail20150816.3581350 | 米国における水疱性口内炎の報告。コロラド州において、ウマ、ラバ、ウシの群れで水疱性口内炎が報告されている。 |
| 24 | 口内炎 | ProMED-mail20150826.3604477 | 米国における水疱性口内炎の報告。ワイオミング州において水疱性口内炎ウイルスのアウトブレイクが発生しており、州全域でウマ、ラバ、ウシにおける水疱性口内炎が報告されている。 |
| 25 | エボラ出血熱 | WHO GAR 2015年2月18日 | エボラ出血熱の発生状況。2015年2月15日までに、計23,253例(死亡9,380例)が報告されている。2015年2月15日までの1週間にエボラウイルス疾患(EVD)の新規確定例128例が報告された。新規確定例はギニアにおいて52例、シエラレオネでは74例が報告された。リベリアからは2月12日までの4日間に2例の新規確定例が報告された。 |
| 26 | エボラ出血熱 | WHO EBOLA SITUATION REPORT 2015年3月25日 | エボラ出血熱の発生状況。2015年3月22日までに、計24907例(死亡10326例)が報告されている。3月22日までの1週間に、エボラウイルス疾患(EVD)の新規確定例79例が報告された。これは2015年において最も少ない週間報告数である。新規確定例はギニアにおいて45例、リベリアにおいて1例、シエラレオネで33例が報告された。 |
| 27 | エボラ出血熱 | WHO EBOLA SITUATION REPORT 2015年6月24日 | エボラ出血熱の発生状況。2015年6月21日までに、世界でエボラウイルス疾患(EVD)症例計27,479例(死亡11,222例)が報告されている。6月21日までの1週間にEVDの確定例20例が報告された。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|--------------|---|---|
| 28 | エボラ出血熱 | ProMED-mail 20150120.3106676 | エボラウイルスの遺伝子変化に関する報告。研究チームは最近のアウトブレイクのウイルス株EBOV/Makの全ゲノム配列を、他の2種類のウイルス株EBOV/Yam-May(1976年Zaire、Yambukuのアウトブレイク由来)およびEBOV/Kik-9510621(1995年Zaire、Kikwitのアウトブレイク由来)と比較したところ、600スポット以上(ゲノムの約3%)に一塩基多型(SNPs)の遺伝子変化が含まれていることが明らかになった。 |
| 29 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150330.3266354 | インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。インドGujarat stateの27歳男性がCCHFに感染し、2015年3月28日に死亡した。 |
| 30 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150524.3382053 | パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2015年5月16日、ウシ小屋を保有する男性がCCHFで死亡した。 |
| 31 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150709.3498303 | 2015年7月2日時点で、ロシアのRostov regionにおいて、61例のクリミア・コンゴ出血熱と3例のライム病が確認された。 |
| 32 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150722.352897 | ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。Stavropol地域において36例がCCHFに感染したことが確認された。症例の58%が動物の世話や農作業をしている際にダニに咬まれたことにより感染していた。 |
| 33 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150824.3598944 | インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2015年8月21日にRajkotの病院で50歳女性がCCHFで死亡し、2015年7月にKutch districtにおいて55歳の女性がCCHFで死亡した。 |
| 34 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150602.3401406 | パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2015年5月8日、動物取引業者が発熱などを呈し5月21日に死亡し、この症例がCCHF陽性であることが確認された。 |
| 35 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150618.3446668 | カザフスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。カザフスタンのZhambyl region, Zhambyl districtにおいて、CCHFウイルスが初めて確認された。2015年5月21日時点で、2例の住民がCCHFと診断された。 |
| 36 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150705.3485737 | パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。パキスタンにおいて入院中のアフガニスタン出身の患者がCCHFと診断された。 |
| 37 | コンゴ・クリミア出血熱 | ProMED-mail 20150718.3520171 | インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告2015年7月15日、Gujarat stateにおいて45歳の女性がCCHFにより死亡した。 |
| 38 | 狂犬病 | ProMED-mail 20150703.3482990 | 米国における狂犬病の報告。カンザス州のスカンク、ウシ、ネコ、キツネにおいて、現時点で確定例が計51例発生している。 |
| 39 | チクングニヤウイルス感染 | Disease outbreak news 2015.8.10 | スペインにおけるチクングニヤの報告。患者は78歳男性で2015年7月31日にチクングニヤ陽性が確定した。この症例はスペインにおけるチクングニヤ流行地域への渡航歴がない患者での初めての症例である。 |
| 40 | チクングニヤウイルス感染 | Health Protection Report Vol.9, No10-11, 2015年3月20日、3月27日 | 英国におけるチクングニヤの報告。英PHEのTravel and Migrant Health sectionが公表した最新の年間データによると、2014年、英England, WalesおよびNorthern Ireland(EWNI)ではチクングニヤ熱症例295例が報告された。2013年(24例)と比較して12倍の増加である。EWNIの症例の88%がカリブ海および南米への旅行で感染していた。 |
| 41 | デング熱 | ABC NewsLetter, June 12, 2015(#22) | ブラジルにおけるデングウイルス(DENV)の報告。DENV RNA陽性血液の輸血によりDENVに感染した受血者の臨床症状と、RNA陰性血液のみを輸血された受血者の臨床症状に差異は認められず、重篤なデング熱を発症した患者はいなかった。 |
| 42 | デング熱 | ProMED-mail 20141229.3060812 | マレーシアのデング熱症例数は2013年の約3倍となるおよそ100,000例となった。中国Guangdong Provinceでは蚊媒介ウイルスが増加し、台湾では2013年の900例未満に対し、15,000例を超える症例数が報告された。2014年12月中旬、インドネシアではデング熱71,668例が報告された。 |
| 43 | デング熱 | ProMED-mail 20150826.3602302 | インドにおけるデング熱の報告。2015年8月、Delhiにおいて少なくとも530例、Gurgaon, Haryana stateにおいては47例のデング熱症例が報告されており、その他の地域においてもデング熱が報告されている。 |
| 44 | デング熱 | ProMED-mail 20150902.3617618 | 台湾におけるデング熱は疑い例3,466例、確定例3,000例以上、ベトナムにおいては約20,000例が報告されている。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|--------------|--|---|
| 45 | デング熱 | World J Virol. 4(2015)113-123 | これまでに報告された5例の輸血によるデングウイルス(DENV)感染について。2002年、香港において1例の受血者のデング熱が認められ、血液製剤のDEN-1陽性が確認された。2008年、シンガポールにおいて3例の受血者の感染が認められ、供血者および感染症状を示した受血者の血液からDEN-2が検出された。2007年、プエルトリコにおいてデング熱のアウトブレイクが発生し、15,350例の供血者を検査したところ、29例がDENV陽性であり、受血者のうち3例のNATが実施され1例が陽性を示した。 |
| 46 | 灰白髄炎 | Emerging infections: monthly summaries 2015年7月 | パキスタンおよびアフガニスタンにおける野生型ポリオウイルス(WPV)1型の報告。2015年8月4日時点、2015年におけるWPV1型症例がパキスタンにおいて28例、アフガニスタンにおいて6例報告されている。 |
| 47 | 灰白髄炎 | WHO The Weekly Epidemiological Record 2015年5月29日 | パキスタンにおける循環型ワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV2)の報告。パキスタンおよびナイジェリアにおいては補足的予防接種活動(SIAs)により、2014年中期以降cVDPV2によるポリオウイルス感染症例は減少していたが、2014年7月、パキスタンにおいて新しいcVDPV2株が発見された。 |
| 48 | 口蹄疫 | OIE 2015年5月10日 | 中国におけるブタの口蹄疫の報告。2015年5月1日、中国Hubei,Jingzhou,Gonganの農場で口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例179例、症例25例、処分179例が報告されている。感染源は不明もしくは結論に到達していない。 |
| 49 | 口蹄疫 | OIE 2015年6月19日 | 韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2015年3月3日～4月28日の間に新たに64件の口蹄疫感染が確認され、48,700例のブタが処分された。 |
| 50 | パルボウイルスB19感染 | ABC NewsLetter, July 10, 2015(#26) | ドイツにおけるパルボウイルスB19(B19V)の報告。DNA濃度が低い(<10 ⁴ IU/mL)B19V陽性血から得た血液製剤の輸血によるB19V感染は確認されなかった。 |
| 51 | フラビウイルス感染 | ProMED-mail 20150501.3334549 | バヌアツにおけるジカウイルス感染の報告。2015年3月バヌアツにおける初のジカウイルス感染症例が報告された。 |
| 52 | フラビウイルス感染 | ProMED-mail 20150515.3364149 | ブラジルにおけるジカウイルスの報告。2015年5月にBahiaで第1例が確定し、Rio Grande do Norteやその他の地域でも報告されている。 |
| 53 | フラビウイルス感染 | ProMED-mail 201540605.3412519 | ドミニカ共和国におけるジカウイルスの報告。Puerto Plata市でジカウイルス症例の第1例が報告された。患者は12歳の女児であった。 |
| 54 | 中東呼吸器症候群 | GAR 2015.5.24 | 韓国における中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2015年5月20日、韓国National IHR Forcal Pointは韓国における初めてのMERSコロナウイルス感染例が確定したことを報告した。5月21日、2例の追加確定症例が報告された。 |
| 55 | 中東呼吸器症候群 | WHO Media centre 2015.6.2 | 韓国における中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2015年5月20日、韓国における初めてのMERSコロナウイルス感染例が確定したことを報告した。この患者は68歳の韓国人で中東の4ヶ国を旅行し帰国後症状を発現した。これまでに、症例が計25例確認されており、この中には、第1例の治療にあった医療従事者、同じ診療所、病院で治療を受けた患者、第1例の家族と来客が含まれていた。 |
| 56 | 中東呼吸器症候群 | ProMED-mail 20150522.3378310 | サウジアラビアおよび韓国における中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2015年5月21日、サウジアラビアHufuofの医療従事者のMERS感染が報告された。また、韓国当局は韓国におけるMERS症例の第2例、第3例を確認した。第2例は第1例の妻である68歳の女性、第3例は第1例と5時間同じ病室にいた76歳の男性であった。 |
| 57 | 中東呼吸器症候群 | ProMED-mail 20150529.3395374 | 中国における中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2015年5月29日、中国において韓国人男性が検査でMERS陽性と判定されたことが発表された。この症例は中国における1例目の症例であった。 |
| 58 | 中東呼吸器症候群 | YONHAP NEWS 2015/6/9 | 韓国における中東呼吸器症候群(MERS)の報告。韓国保健省福祉部は2015年6月9日、MERSコロナウイルスの感染例が新たに8例増え、計95例になったと発表した。感染者のうち1例が死亡し、韓国国内の死亡例は7例となった。新たな感染例のうち3例は病院における二次感染であった。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------------|--|--|
| 59 | 中東呼吸器症候群 | ProMED-mail 20150618.3445791 | 韓国における中東呼吸器症候群 (MERS) の報告。2015年6月18日 Ministry of health and welfare は MERS コロनावirus の新規症例3例、新規死亡症例4例について公表し、感染症例は計165例、死亡例は23例となった。 |
| 60 | コロナウイルス感染 | Euro Surveill.20(2015):Pii=21163. | 韓国における中東呼吸器症候群 (MERS) のアウトブレイクの報告。2015年6月19日までに24例の死亡例を含む166例の感染が確認された。 |
| 61 | ウイルス感染 | Emerg Infect Dis. 21(2015)760-764 | 米国において新種のウイルスが分離されたとの報告。2014年夏、カンザスで農業従事者を死亡させた新種のウイルスを、バーボンウイルスと名付けたことをアメリカ疾病予防管理センターが発表した。このウイルスはオルトミクソウイルス科に属するソゴトウイルス属の一種であり、この疾患は進行が速く重度であり、肺不全、腎不全やショックを引き起こす。この疾患に対する治療法はなく、媒介生物も不明である。 |
| 62 | ウイルス感染 | Clin Infect Dis. 2015. doi: 10.1093/cid/civ643 | 米国における新規ポックスウイルスの報告。腎移植患者において、ポックスウイルス感染が確認された。発症当時(2000年)、電子顕微鏡にてポックスウイルスA型に分類される細胞質内封入体を認めたものの病原体は同定されなかったが、その後、次世代シーケンスを用いた再調査により新規のポックスウイルスであることが明らかになった。 |
| 63 | ウイルス感染 | Clin Infect Dis. 60(2015)1681-1683 | 韓国における重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の報告。SFTS患者のケアを行った27名の医療従事者のうち、心肺機能蘇生を担当した4名がSFTSと診断された。呼吸器分泌物、血液、体液に汚れたガウンが医療従事者のSFTS感染と関連していた。 |
| 64 | ウイルス感染 | 第56回日臨床ウイルス学会 (2015.6.13,14) | 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の報告。国内においては、2013年1月に患者が確認された。中国においては患者の血液、体液を介した二次感染事例も報告されている。 |
| 65 | ウイルス感染 | Clin Infect Dis.60(2015)974-975 | 米国におけるジェームズタウンキャニオンウイルス (JCV) の報告。ミネソタ州において、2014年5月から10月までの間にアルボウイルスの検査用に提出された血清検体および脳脊髄液検体84検体を対象として、JCV IgM抗体検査を実施した結果、10検体がJCV仮陽性となり、うち4検体についてはJCV感染が確認された。 |
| 66 | ウイルス感染 | N Engl J Med. 373(2015)154-162 | ドイツにおけるボルナウイルスの報告。ドイツにおいて脳炎で死亡した高齢男性3例の脳組織から新たな型のボルナウイルスが検出された。患者は62~72歳の男性でカワリリスを繁殖させていた。 |
| 67 | ウイルス感染 | ProMED-mail 20150513.3357776 | オーストラリアにおけるロスリバーウイルス感染症の報告。西オーストラリア州およびクイーンズランド州でロスリバーウイルス感染症のアウトブレイクが発生し、クイーンズランド州では長期化したことから、過去20年で最悪となっている。 |
| 68 | ウイルス感染 | Transboynd Emerg Dis. 61(2014)443-448 | ウシにおけるランピースキン病ウイルス (LSDV) の実験的な精液伝播の初めての報告。LSDV野外株を添加したウシの精液を用いた人工授精により、雌ウシ及び受精胚のLSDV感染が確認された。 |
| 69 | ウイルス感染 | mBio. 6(2015) e01466-15 | 米国における血液製剤による Human hepegivirus 感染の報告。米国において輸血患者2例および血漿由来の血液凝固因子製剤を投与された患者2例において、HCVに類似する新種のウイルス Human hepegivirus 1型が検出された。血液製剤投与前の患者血液からは、このウイルスは検出されておらず、血液製剤による感染が疑われるとの報告。 |
| 70 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | OIE 2015/6/26 | アイルランドにおける BSE の報告。アイルランド Louth において定型型 BSE が報告された。ウシにおいて疑い例289例、症例1例、処分例1例が報告された。 |
| 71 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Cell Rep. 11(2015)1168-1175 | 感染性プリオン蛋白 (PrPsc) の感染伝播に関する報告。PrPsc の植物への結合を調べた結果、脳ホモジネートあるいは排泄物に含まれる少量の PrPsc が ハマムギの根と葉に結合し、野生型のハムスターがこれらを摂取することにより感染することが明らかとなった。 |
| 72 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Prion 2015 (May 26-29, 2015) P.157 | 感染性プリオン蛋白 (PrP TSE) 含有培地で栽培したシロイヌナズナの茎および葉は、マウス脳内に注入した場合、感染性を有することが明らかとなった。 |
| 73 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Prion 2015 (May 26-29, 2015) P.164 | リスザルにおけるプリオン血液伝播の報告。非ヒト霊長類モデルのリスザルによる血液製剤の感染性に関する大規模研究の結果、ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病の白血球による疾患伝播が確認された。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|----|------------|---|---|
| 74 | プリオン因子検査陽性 | PLoS One. 2015 Jan 23;10(1):e0116094. doi:10.1371/journal.pone.0116094. | 18頭の欧州アカシカ (<i>cervus elaphus elaphus</i>) に大量のBSE病原体を胃チューブにより摂取させた結果、1頭において伝達性海綿状脳症に特徴的なニューロン核周辺及びニューロピル中の空胞化の組織病変が認められ、異常型プリオン蛋白が盲腸、小腸、中枢及び末梢神経系に存在していた。欧州アカシカのBSE感染経路として消化管経由の感染が示唆されるとの報告。 |
| 75 | 脳アミロイド血管障害 | Nature. 525(2015)247-250 | 英国において、ヒト脳下垂体由来成長ホルモン治療後にクロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) を発症した36～51歳の8例の患者について剖検を実施した結果、4例に脳実質および脳血管に顕著なアミロイドβ沈着が確認された。著者らは、医原性CJDと同様にアミロイドβ病変も医原的に伝播しうる可能性が示唆されると報告している。 |
| 76 | レンサ球菌感染 | Epidemiol Infect. (2015)1-10 | ブタの繁殖・呼吸器症候群 (PRRS) のアウトブレイクとヒトにおけるブタレンサ球菌感染の (<i>S.suis</i>) の関連性に関する報告。ベトナムにおいてPRRSの流行期間 (2010年) に <i>S.suis</i> 感染者と非感染者のPRRS曝露状況について比較したところ、感染者はPRRS発生地区またはその近隣に在住している割合が高いことが報告され、PRRS発生地区の近隣への在住が <i>S.suis</i> 感染の有意なリスクファクターであることが示された。 |
| 77 | レンサ球菌感染 | IASR. 36(2015)159-160 | 日本におけるブタレンサ球菌感染の報告。包丁により指に切創を負った女性が、生のブタの内臓を加熱調理・喫食後に、ブタレンサ球菌 (<i>Streptococcus suis</i>) が検出され、髄膜炎、敗血症、DICと診断された。 |
| 78 | レンサ球菌感染 | ProMED-mail 20150721.3525855 | 香港における <i>Streptococcus suis</i> (ブタレンサ球菌) の報告。2015年6月、香港におけるブタレンサ球菌感染症例が3例確認された。3例とも過去の皮膚損傷やブタとの直接接触歴はなかったが、生の豚肉を取り扱っていた。 |
| 79 | レンサ球菌感染 | S D Med. 26(2015)298-299 | 米国における <i>Streptococcus thoraltensis</i> (<i>S.thoraltensis</i>) の報告。急性上腹部痛で搬送された妊婦が分娩後、児の気管吸引物と胎盤から <i>S.thoraltensis</i> が同定された。患者はウサギやブタとの接触はなく、ペットも飼っていなかった。患者の夫は食肉包装工場に勤務しており、ブタに接触していたことから、夫に定着した微生物が生殖器を通じて膈に定着し、胎盤に感染したものと推測された。 |
| 80 | 炭疽 | ProMED-mail20150327.3260622 | 米国における炭疽の報告。サウスダコタ州のウシの群れにおける死因として炭疽が確認された。 |
| 81 | 炭疽 | ProMED-mail 20150622.3457043 | 米国における炭疽の報告。ノースダコタ州においてウシの炭疽が確認された。 |
| 82 | 炭疽 | ProMED-mail 20150406.3279998 | インドにおける炭疽の報告。インドにおいて、2015年3月29日からブタ100例以上、ウシ8例の死亡が確認された。2014年12月にゾウ1頭が炭疽で死亡したことから、これらの死亡原因も炭疽である可能性があり、検査が進められている。 |
| 83 | 炭疽 | ProMED-mail 20150729.3545781 | カナダにおける炭疽の報告。カナダSaskatoonのウシ1頭の死因は炭疽であることが確認された。 |
| 84 | 炭疽 | ProMED-mail 20150730.3548199 | カナダにおける炭疽の報告。カナダFort Vermillion地域の2ヶ所の肉牛農場において炭疽の確定症例が確認された。 |
| 85 | 結核 | ProMED-mail20150426.3323167 | 米国における結核の報告。ミシガン州の乳牛の群れがウシ結核陽性となった。 |
| 86 | 結核 | ProMED-mail20150711.3502593 | インドにおける結核の報告。WHOによると2013年のインドにおける結核症例は200万例以上であり、これは世界最多で、世界中の症例の4分の1を占めている。 |
| 87 | ペスト | ProMED-mail 20150108.3076901 | マダガスカルにおけるペストの報告。2015年1月6日、Ministry of Healthから収集した情報によると、Antananarivoにおいて2014年8月4日～2014年12月29日にペストの疑い例13例が登録された。近隣のAnosibe、Anosimahavelona、Anosizato、Manjakaray、Antanimora、Ankasinaなどでも感染が発生している。13例のうち、検査確定症例は3例のみであった。2014年8月4日～2014年12月29日に、マダガスカル島ではペスト症例224例が報告され、そのうち58例が死亡した。 |
| 88 | ペスト、野兔病 | ProMED-mail 20150116.3097674 | 米国におけるペストの報告。2014年11月以降米国のニューメキシコ州において、ネコ3匹、犬1匹、ネズミ1匹におけるペストが確認された。ペスト及び野兔病によるげっ歯類の個体減少が認められていることが報告された。 |
| 89 | 野兔病 | CDC/MMER. 2015 Vol.64 No.10 | 米国における野兔病の報告。2015年3月14日までの1週間でモンタナ州における1例の野兔病ヒト感染例が報告された。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|------------------------------|---|
| 90 | 野兔病 | CDC/MMER. 2015 Vol.64 No.11 | 米国における野兔病の報告。2015年3月21日までの1週間で、ワシントン州における1例の野兔病ヒト感染例が報告された。 |
| 91 | 野兔病 | CDC/MMER. 2015 Vol.64 No.18 | 米国における野兔病の報告。2015年5月9日までの1週間でネブラスカ州において1例、バージニア州において1例の野兔病ヒト感染例が報告された。 |
| 92 | 野兔病 | CDC/MMER. 2015 Vol.64 No.22 | 米国における野兔病の報告。2015年6月6日までの1週間でオクラホマ州における1例の野兔病ヒト感染例が報告された。 |
| 93 | 野兔病 | CDC/MMER. 2015 Vol.64 No.27 | 米国における野兔病の報告。2015年7月11日までの1週間でロードアイランド州における1例の野兔病ヒト感染例が報告された。 |
| 94 | 野兔病 | IDWR 2015年 23週 | 福島県においてヒトにおける野兔病1例が確認された。感染経路は不明。 |
| 95 | 野兔病 | ProMED-mail 20150517.3368467 | 米国における野兔病の報告。ニューメキシコ州保健省は2015年1月1日から州周辺で動物における10例の野兔病を確認した。 |
| 96 | 野兔病 | ProMED-mail 20150522.3379806 | 米国における野兔病の報告。コロラド州保健省は、2015年最初のヒトにおける野兔病症例を確認した。患者は植林または庭の手入れを行っている間に感染した。近隣においてウサギの集団死があり、その地域の動物で野兔病のアウトブレイクを引き起こした可能性が示唆されている。 |
| 97 | 野兔病 | ProMED-mail 20150603.3403896 | 米国における野兔病の報告。コロラド州保健省は、2015年最初のヒトにおける野兔病症例を確認した。患者は植林または庭の手入れを行っている間に感染した。近隣においてウサギの集団死があり、その地域の動物で野兔病のアウトブレイクを引き起こした可能性が示唆されている。 |
| 98 | 野兔病 | ProMED-mail 20150523.338738 | チェコにおける野兔病の報告。チェコのモラヴィアにおいて捕獲されたウサギから野兔病が確認された。 |
| 99 | 野兔病 | ProMED-mail 20150626.3465858 | 米国における野兔病の報告。ニューメキシコ州ベルナリオ郡においてイヌ5匹、ウサギ1羽の野兔病が確認された。 |
| 100 | 野兔病 | ProMED-mail 20150702.3479571 | 米国における野兔病の報告。コロラド州エルパソ郡においてイヌとウサギの野兔病感染が確認された。 |
| 101 | 野兔病 | ProMED-mail 20150702.3480207 | 米国における野兔病の報告。アラスカ州ノースポールにおいて野兔病のヒト感染例1例が確認された。患者はノウサギの皮を剥いだ後に罹患した。 |
| 102 | 野兔病 | ProMED-mail 20150703.3482641 | 米国における野兔病の報告。コロラド州メサにおいてウサギの野兔病が確認された。 |
| 103 | 野兔病 | ProMED-mail 20150715.3510564 | 米国における野兔病の報告。ニューメキシコ州ロスアモラスにおいて野兔病ヒト感染例が確認された。この患者は2015年のニューメキシコ州における初めての野兔病感染例である。 |
| 104 | 野兔病 | ProMED-mail 20150718.3520085 | 米国における野兔病の報告。ワイオミング州保健省によると、2015年夏、ワイオミング州の動物およびヒトにおいて、野兔病が増加しているとのこと。 |
| 105 | 野兔病 | ProMED-mail 20150801.3548673 | 米国における野兔病の報告。コロラド州ウェルド郡で新たに5例の男性が野兔病に感染した。サウスダコタにおいては2015年6月以降にブラックヒルズ周辺で7例の野兔病ヒト感染が報告された。 |
| 106 | 野兔病 | ProMED-mail 20150802.3553047 | 米国における野兔病の報告。ワイオミング州ブラットにおいてワタオウサギ2羽における野兔病が確認された。 |

| ID | 感染症 (PT) | 出典 | 概要 |
|-----|---------------------|---|---|
| 107 | クリプトスポリジウム感染 | MMWR. 64(2015)773 | 米国におけるクリプトスポリジウム感染の報告。2015年2月米国のnortheastern universityにおいて安楽死させた仔ウシを取り扱う研修会に参加した学生がクリプトスポリジウム症を発症した。 |
| 108 | コリネバクテリウム感染 | BMC Microbiology. 15(2015) | 動物園で飼育されていたウォーターラットからCorynebacterium ulceransが分離され、ウォーターラットがCorynebacterium ulceransの宿主となることが明らかとなった。 |
| 109 | ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス1型感染 | Vox Sang. 2015 Apr 30. doi: 10.1111/vox.12263. | 血液製剤の保存前白血球除去がヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)の輸血伝播リスクを低減するとの報告。 |
| 110 | 人畜共通細菌感染 | J Clin Microbiol. 53(2015)1990-1992 | イタリアにおけるActinobacillus suis/equuliのヒト感染の報告。一般的にウマまたはブタの日和見病原菌として知られているActinobacillus suis/equuliにより髄膜炎及び敗血症に罹患した15歳の患儿が報告された。罹患前の農場への訪問が感染源として疑われている。 |
| 111 | 細菌感染 | J Clin Microbiol. 2015 doi:10.1128/JCM.01249-15 | Mannheimia glucosida (M.glucosida)による初めてのヒト感染例の報告。右母指に10ヶ月齢子ヒツジによる咬傷を負った64歳男性からM.glucosidaが検出された。 |
| 112 | 細菌感染 | Lancet Infect Dis. 15(2015)663-670 | 中国における新規のアナプラズマ属種によるヒト感染の報告。中国において2ヶ月以内のダニ刺咬歴のある患者の血液サンプル447例について調査したところ、28例において新規アナプラズマ属種による感染が確認された。系統発生解析の結果、既知のアナプラズマ属種とは異なるものであり、Anaplasma capraと命名された。Anaplasma capraはヤギにおいても確認されている。 |
| 113 | 真菌感染 | J Clin Microbiol. 2015 doi:10.1128/JCM.00471-15 | 米国におけるLophotrichus属感染の報告。2011年4月、就寝中に飼い犬に眼を踏まれ受傷した患者において、Lophotrichus属の新種と推定される菌類による侵襲性真菌性角膜炎が確認された。 |
| 114 | アメリカトリパノソーマ症 | 第89回日本感染症学会学術講演会 (2015.4.16,17) | 2012年8月～2014年10月に日本の医療機関、NGOなどから連絡のあったシャーガス病疑い例(ラテンアメリカ出身者10例、日本人10例の血液を採取し検査を行ったところ、ラテンアメリカ出身者7例が抗体陽性となり、そのうち6例がPCR陽性、3例からT.cruziが分離された。 |
| 115 | マラリア | ProMED-mail20150819.3588479 | インドにおけるマラリアの報告。インドOdisha state,Kandhamal districtにおいて、国営の全寮制学校の全生徒のうち3,434例がマラリア陽性であった。 |
| 116 | 微孢子虫類感染 | Parasitol Int. 64(2015)18-23 | ブラジルにおけるEnterocytozoon bienersi (E.bienersi)の報告。ブラジルのリオデジャネイロ州においてブタ91匹の糞便サンプルについて調べた結果、59.3%のサンプルがE.bienersiに陽性であった。 |